

ワクチンの不平等が暴く豊かな国の偽善

= アニス・チョウドリ、ジョモ・クワメ・スングラム

IPS 2021年7月13日

すべての人に免疫がつくまで、誰も世界的大流行から保護されない。しかし、豊かな国の政策による世界規模のワクチン・アパルトヘイト（人種差別）によって、COVID-19 は発展途上国のパンデミックになり、その終焉と世界経済の回復を遅らせている。

南の発展途上諸国は、パンデミックをより安価に効果的に封じ込めるため、ワクチン製造の特許権 = 知的所有権の取引に関する世界貿易機関（WTO）の協定（TRIPS）の関連条項 = をパンデミックの期間中、一時的に停止することを提案しているが、ほとんどの先進諸国は拒否している。

試薬や治療薬、保護具、予防ワクチンの生産を迅速に拡大し手頃な価格で入手できるようにする必要がある。そのため、2020 年後半に南アフリカとインドが行ったこの提案には、現在 WTO 加盟国の 3 分の 2 以上が賛成している。

バイデン政権は、ワクチンについてだけ、トランプ前政権の反対を覆し（支持を表明）した。しかし必要な補完的措置がなく、欧州政府の反対が続いたため、米国の部分的な政策転換はこれまでのところ実質的な影響を及ぼしていない。

世界保健機構（WHO）のテオドス事務局長は、パンデミックは予防接種の「スキャンダラスな不公平」によって長引いており、「ワクチンの公平な共有がなされていないために、パンデミックは 2 つの軌道を示し、世界で最も貧しく、最も脆弱な人々に被害を及ぼしている」と指摘している。

新しい、より感染力の強い、致命的な変異株が急速に広まっている。専門家は貧しい国にとっての最悪の事態はこれからだと警告している。一方、ワクチンは天文学的な利益を生み出している。ワクチン収益の急増により、少なくとも 9 人の新しい億万長者が生まれ、株価急騰で経営幹部は非常に裕福になった。

残り物はチャリティーに

先進諸国は、必要以上のワクチンを蓄えている。欧州連合（EU）は 30 億回、つまり 1 人あたり 6.6 回分を確保し、米国は 13 億回、一人あたり 5 回

分を確保した。カナダは 3800 万人の人口に 4 億 5000 万回分、つまり一人当たり 12 回、英国は 5 億回分以上、一人あたり 8 回、オーストラリアは 2500 万人の人口に 1 億 7000 万、一人あたり 7 回分を確保した。

ワクチンは主に成人が接種を受けるため、実際の比率はさらに不当だ。ユニセフによれば、ほとんどの高所得国は、必要とされるワクチンの少なくとも 3・5 倍を取得している。これにたいして低中所得国へのワクチン供給協定は、2023 まででせいぜい人口の半分しかカバーしていない。

G7 は（途上国に）十億回分の供給を約束して、その報道の見出しは人を引き付けた。しかし実際には 8 億 7000 万回分で、必要な 110 億回分にははるかに及ばない。しかもこれには二重計算が含まれる。10 億回のうち 1 億 3000 万回分は、ワクチンへの公平なアクセスを確保するための取り決めで以前から COVAX に約束されていたものだ。

供給は年末まで、つまり（先進）諸国内の予防接種がほぼ完了した後まで開始されない。供給される分のほとんどは、必要量をはるかに超えて注文された分だ。G7 には、世界に予防接種をするという決意はおろか真剣な計画がな

いことは明らかだ。

ヨーロッパの偽善

EU 議会のほとんどの議員は特許の一時停止の提案を支持しているのに、欧州委員会が断固反対し、半端な言い訳をしている。生産と輸出の増加がより緊急だから、特許の保護が必要だというのだ。

欧州委員会のウルズラフォンデアライエン委員長は、パンデミックはワクチン生産国にとって輸出のチャンスだと考えており、特許を停止しても「短中期的にワクチン接種にまったくつながらない」と否定している。

南の途上国にも世界クラスの（生産）施設があり、長い間医薬品とワクチンを製造してきたが、フランスのマクロン大統領はこれに侮辱を加えていった。「この知的財産を使って[ワクチン]を生産する方法を知らない研究所に本当に委託して、明日生産されることを期待できるのか」

現在、欧州委員会は、アストラゼネカ（ヨーロッパで製造された場合のみ）、フ

アイザー、モデルナ、ジョンソン&ジョンソンの4つのワクチンのみを認めている。これはワクチン・アパルトヘイトの合法化だ。インド製のAZでワクチン接種されたグローバル・サウスの数億人、およびその他の多くの人々がヨーロッパでは接種済みと認められない。

新しい南北分割

7月7日までに、世界中で33.2億回以上のワクチンが投与されたが、その85%が高所得国であり、低所得国には0.3%しか投与されていない。アフリカの予防接種率（これまでのところ4%）は、すべての大陸の中で最も遅く、一部の国では感染率は急速に上昇しているのに接種はまだ開始されていない。

先進諸国では高い予防接種率のおかげで、死亡者数が、世界全体の1月の59%（2021年1月）から2021年5月には15%に減少した。一方発展途上国の死者数は世界全体の85%。これでも過小評価されており、急速に増加している。

国連事務総長は、「ワクチンを平等に配分できるかどうかは道徳上の問題であ

ると同時に、実践的にも必要なことなのだ。なぜなら誰もがワクチン接種を受けるまで、誰もが脅威にさらされるからだ」と指摘している。

国際通貨基金（IMF）は、2021 年末までに世界人口の少なくとも 40%を免疫し、残りを 2022 年半ばまでに免疫するために、500 億米ドルを投資するよう提案している。パンデミックを終わらせれば、経済回復が加速され、2025 年までに世界生産を 9 兆ドル、税収を 1 兆ドル押し上げるという。だが先週末の G20 財務相会議はその提案を承認しなかった。

新しいアパルトヘイトを拒否し、協力しよう

憤慨したゴードン・ブラウン英元首相は、「すべての人にワクチンを接種するのか、それともワクチンのアパルトヘイトか」と問いかけた。世界を迅速に免疫するためのワクチン生産の拡大には、前例のない国際協力が必要なのだ。

特許の一時停止はパンデミックの封じ込めに役立つはずだが、先進諸国の利己的な政策によって、COVID-19 は南のパンデミックになった。これは南北の分裂と、南による恨みを必然的に深めるだけでなく、すべての人にとってのパンエ

ミックの終焉と回復を妨げる。

一方、国際通貨基金（IMF）は、富裕国と貧困国の間の景気回復における「危険なほどの相違」を警告している。南の途上諸国は、限られた財源、高い債務負担、脆弱な医療体制の下で、拡大する大惨事に対処するための選択肢を早急に再考する必要にせまられている。（了）

筆者のアニス・チョウドリ氏は、バングラदेश出身の経済学者、オーストラリアの大学や国連社会経済理事会で研究、オーストラリアや東南アジア各地の大学で教鞭。**ジヨモ・クワメ・スダラム氏は、**マレーシアの経済学者、国連経済社会理事会やマレーシア政府の経済政策顧問など歴任。

（IPS = インター・プレス・サービス 7月13日から）【翻訳 田中靖宏】